



個と組織を生かす

2018年度青森プロボノチャレンジ アンケート・インタビュー調査でみる 軌跡

2019年1月25日（金）

(株)リクルートマネジメントソリューションズ

組織行動研究所 藤澤理恵

アンケート、インタビュー調査の趣旨と概要

■青森プロボノチャレンジプログラムへの参加者を対象に、 社会貢献プログラムへの参加経験について調査

- 参加のきっかけ・期待したこと
- どのような経験だったか
- 仕事における行動や考え

■アンケート

- 参加前：オリエンテーション後～活動開始前まで（9月7日～20日）
- 参加後：報告会終了1ヵ月後（11月28日～12月11日）

■インタビュー

- 参加後：報告会終了1ヵ月後（2018年11月26日～12月9日）

調査結果のまとめ

■参加のきっかけ・期待したこと

- 「ボランティア」と肩肘を張らず、気軽に参加できる機会
- 社会活動や、多様な人の参加に開かれていることがプロボノの特徴

■どのような経験だったか

- 仕事では得にくい経験
 - －社会にある、多様な生き方や、志ある活動を知る機会
 - －スキルや能力を違う場面で生かし、感謝される機会
 - －楽しさや貢献の気持ちに導かれて、手探りで学び考える機会
- 私生活や仕事生活を豊かにする学び
 - －自分の強みや関心を知ったり再確認する機会
 - －他者との関わり方の「引き出し」が増える機会
 - －生き方や働き方に関する考え方が柔軟になる機会

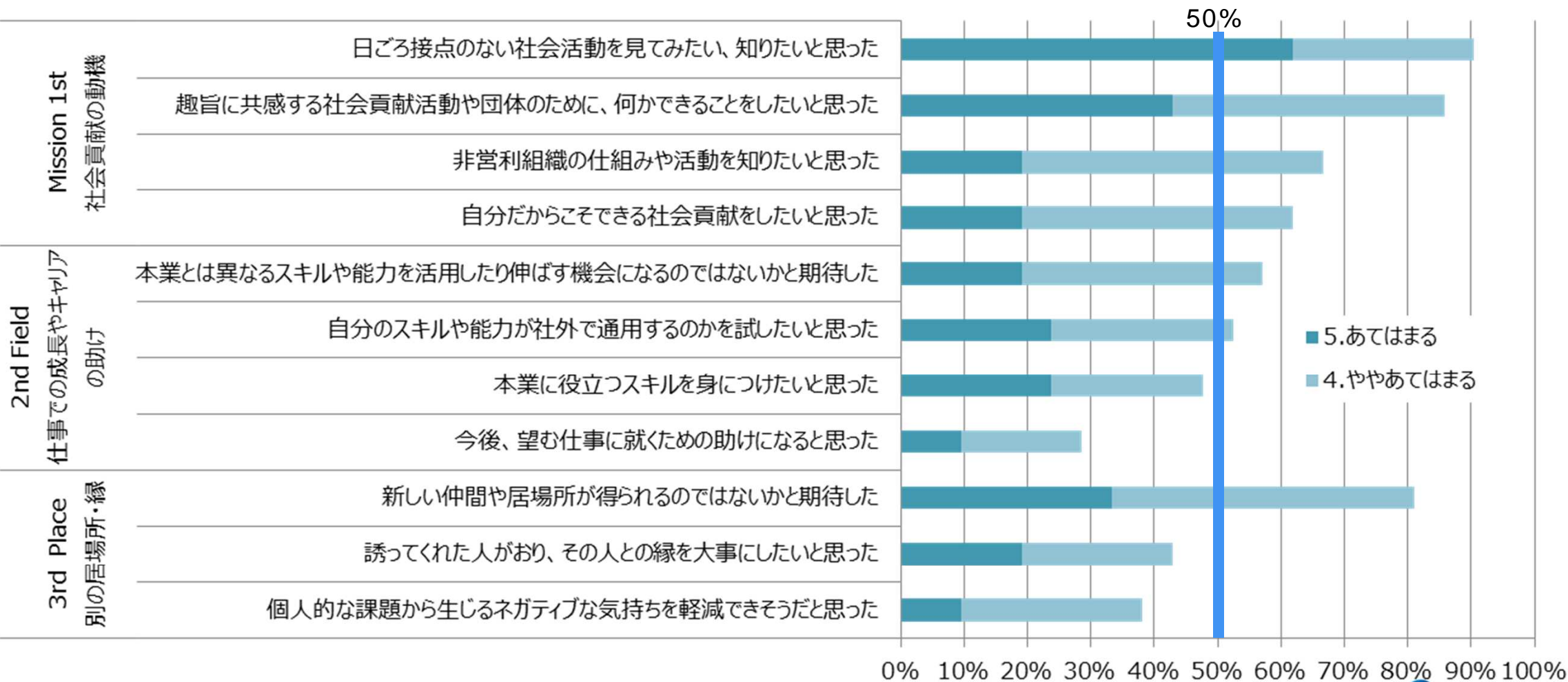
参加のきっかけや期待

■参加動機はさまざま

社会活動を知りたい、貢献したい（ミッション・ファースト：1st）

仕事やキャリアに役立てたい（セカンド・フィールド：2nd）

家庭や職場とは別の居場所や縁を育てたい（サード・プレイス：3rd）



【インタビュー】参加のきっかけや期待

- 「支援先団体の活動内容自体にちょっと興味があったので。マニュアル作るとそのノウハウ的なものをちょっとこう触れる部分もあるので、ちょっとやってみました」(30代男性)
- 「今までの仕事とかで培った経験、得た経験とか、培った技能ですね、そういったものを活用して事業を円滑に進めるようなお手伝いということで、いろいろな年代の人がいた方がいいだろうなと、それなりに頭も固くなっている年代なので、ある程度経験が生かしやすい方がいいかなというところですよ」(50代男性)
- 「新しいことをやってみたかったっていう感じですね。自分の知らない世界を見てみたいというか、どこにマッチングするかも分からないし、どこかで何か新しいことができるのかなと思ったので。どこになるか分からないという、その面白さもあったのかなと」(40代女性)
- 「あまり具体的なイメージって全然つかめなくて参加したんですけど、なんか新しいことだから楽しそうだなと思って応募しました」(30代女性)

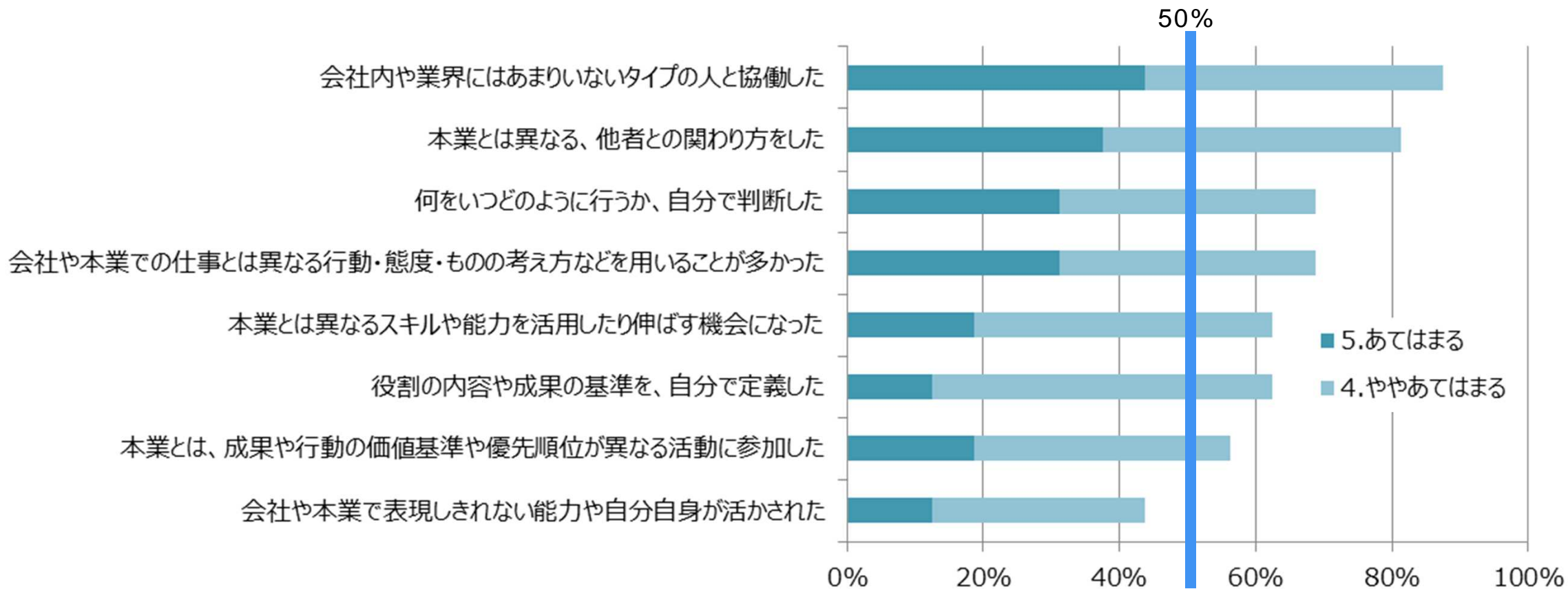
【インタビュー】参加のきっかけや期待

- 「人生経験を積んできて、新しい自分を発見することって少なくなってくるじゃないですか。いろいろな人たちと会って、新しい自分とか新しい業界のこととか、それで畑違いといえれば畑違いなのかな？とか思いながらも、どんな世界なんだろうなっていうふうな不安と期待ですよね」(40代男性、金融)
- 「声をかけてくださった副代表の久保田さんが、出来るときに何でもチャレンジしてみたほうがいいよって。別のときだったんですけど。私も、転勤族で数年しかいられないから浅い付き合いをするとか、その町にいて何も出来ないとかじゃなくて、せっかくそういう機会があって何か出来るんだったら何でもやってみようって。 / やっぱり本当に何もしないで数年後に雇ってもらったときに、はたして役に立てるのかどうかって不安があって。ずっと同じところには勤められなくても、ちょっとずつ毎年やっていけば自信にもなるかなって」(20代女性、育児)

プロボノという経験

■仕事では得にくい経験

- 仕事とは異なるタイプの人と、異なる関わり方をした 8割
- 役割やタスクを自分で判断する経験 6～7割
- 本業とは異なるものの考え方やスキルを用いる経験 6～7割



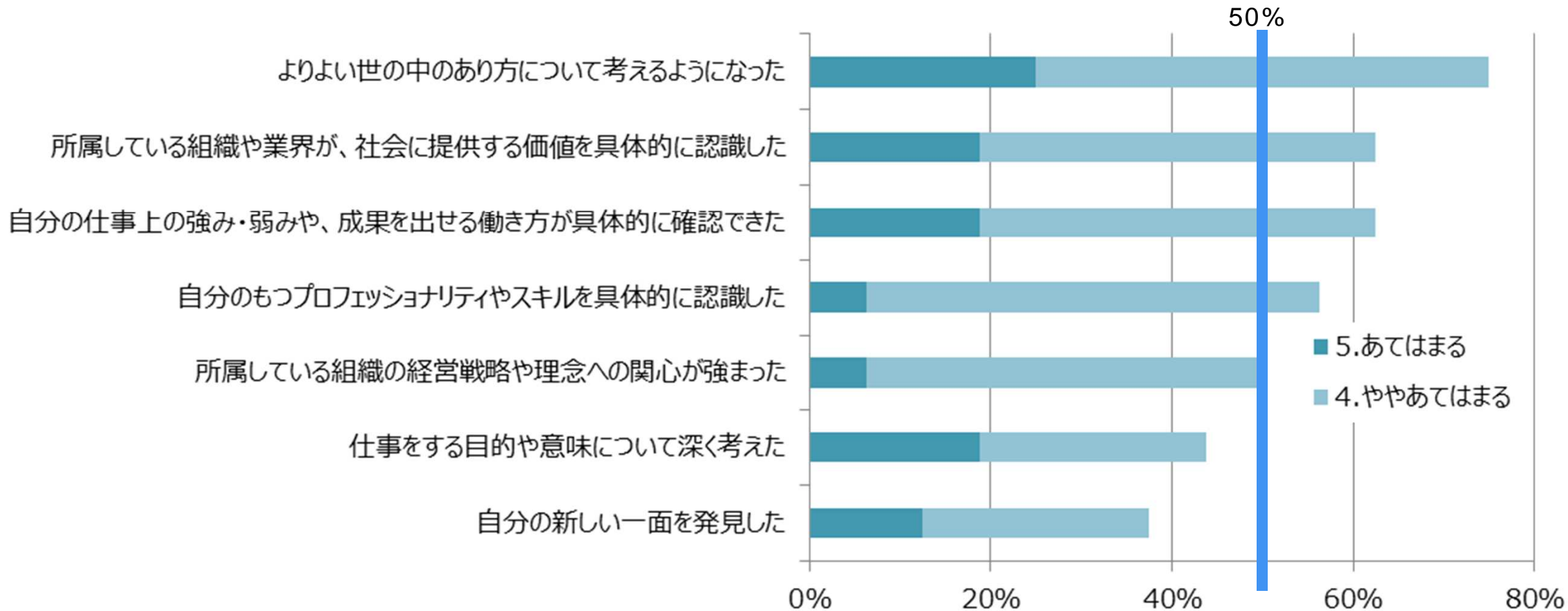
日常と異なる人や能力との出会い

- 「この団体を大切にしようという気持ちがあるからこそ、弱い体制でも何とかできているということだと思ったんですよね。すごく困っている人がいっぱいいて、で、何とかしたいと思う人がいて、そういう人が手弁当で、できないことがいろいろありながらも頑張っているという姿にびっくりしたし、すごいなって素直に思いましたね」(30代男性、行政)
- 「理事長が、自分よりも相手をすごく、何とか相手に幸せになってほしいから頑張っている。自分よりも相手のことをすごく考えて行動されているのがすごく印象的でした。自分にはないというか」(30代女性、行政)
- 「私がイメージしていたマニュアルというのは、もう字だけのガッチガチの、会社の書類というのは文字だけで堅い感じで.....ああいう本当に柔らかいものができ上がるのすごいじゃん、というふうに思った部分があります。もうすごいよかったじゃないですか」(40代男性、金融)

職業生活に関する内省

■社会と、仕事について考える機会

- よりよい世の中について考えるようになった 7割
- 所属組織や、自分自身の強みや専門性を具体的に認識した 6割



よりよい世の中について考えるようになった

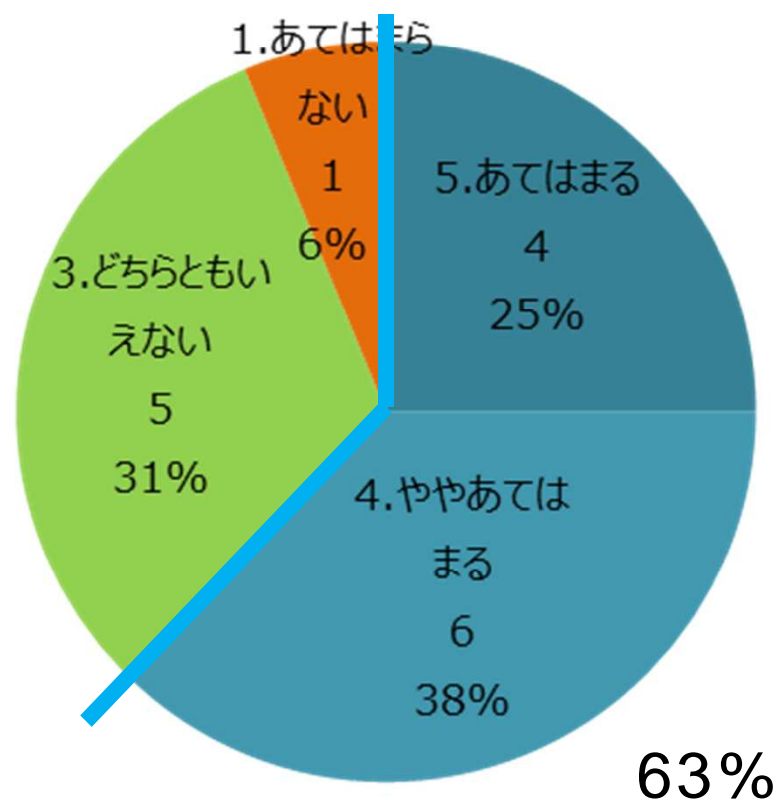
- 「(支援先団体の活動が)青森県に必要だっていう感じですね。本当にいいことをやってるんだし、みんな使って人も集まってくれば、もっとこう、共生社会とかですね。
- こうやって良いことをやっている人がいたから広めなきゃとか。で、逆に、何でみんな使わないんだらうとか。それだって、もっとシステムがちゃんと構築されていれば、まあ今もされているのかもしれないですけども、もっとみんな子育てしやすい環境になるんじゃないかとか。
- 新しい世界を知った。ああ、こういうふうなサービスがあるんだ、こうやってやっている人たちが青森にいるんだ、とかですね。記憶に残って、ただ「やったな」というんじゃなくて、「人と会ったな」という感じがしますね。」(40代男性、金融)

仕事における行動や考えの変化

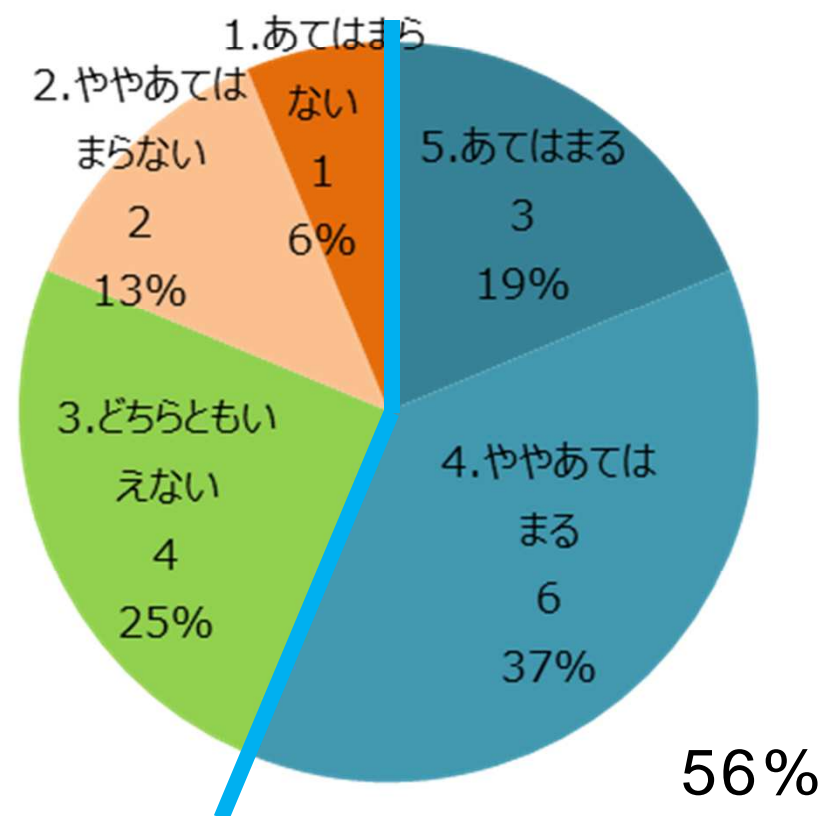
■担当している仕事のとらえ方が変わる

- 自分自身や、全体に対して、より意味深いものと感じる傾向 6割

仕事上のタスクや役割から、自分個人にとっての意味を見出すようになった



自分のタスクや役割を、より大きな意味ある全体の一部としてとらえるようになった

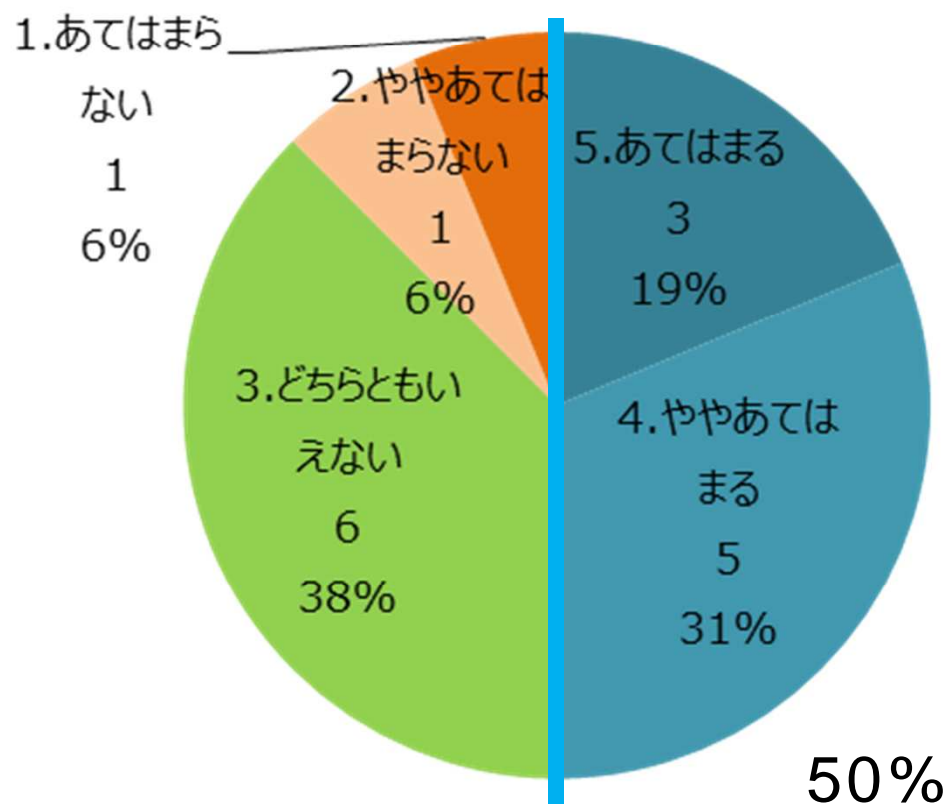


仕事における行動や考えの変化

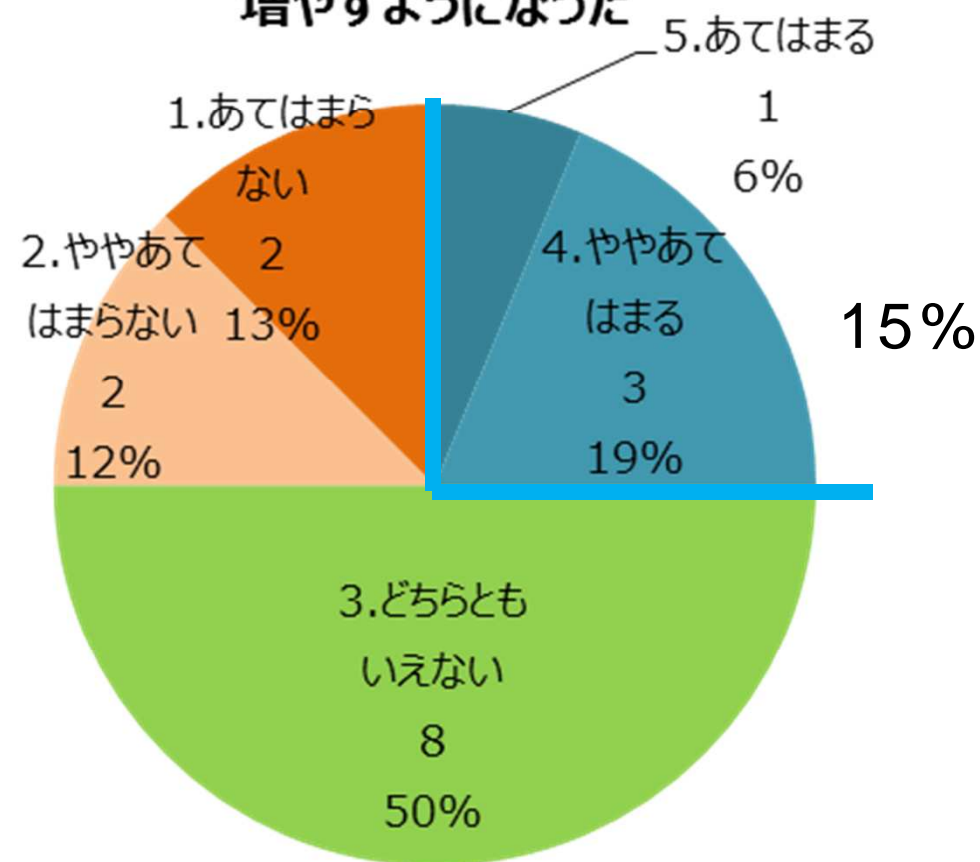
■担当している仕事における、活動が変わる

- タスクの範囲や、働きかける相手を、広くとらえるようになる傾向

自分の仕事の範囲をより広くとらえるようになった



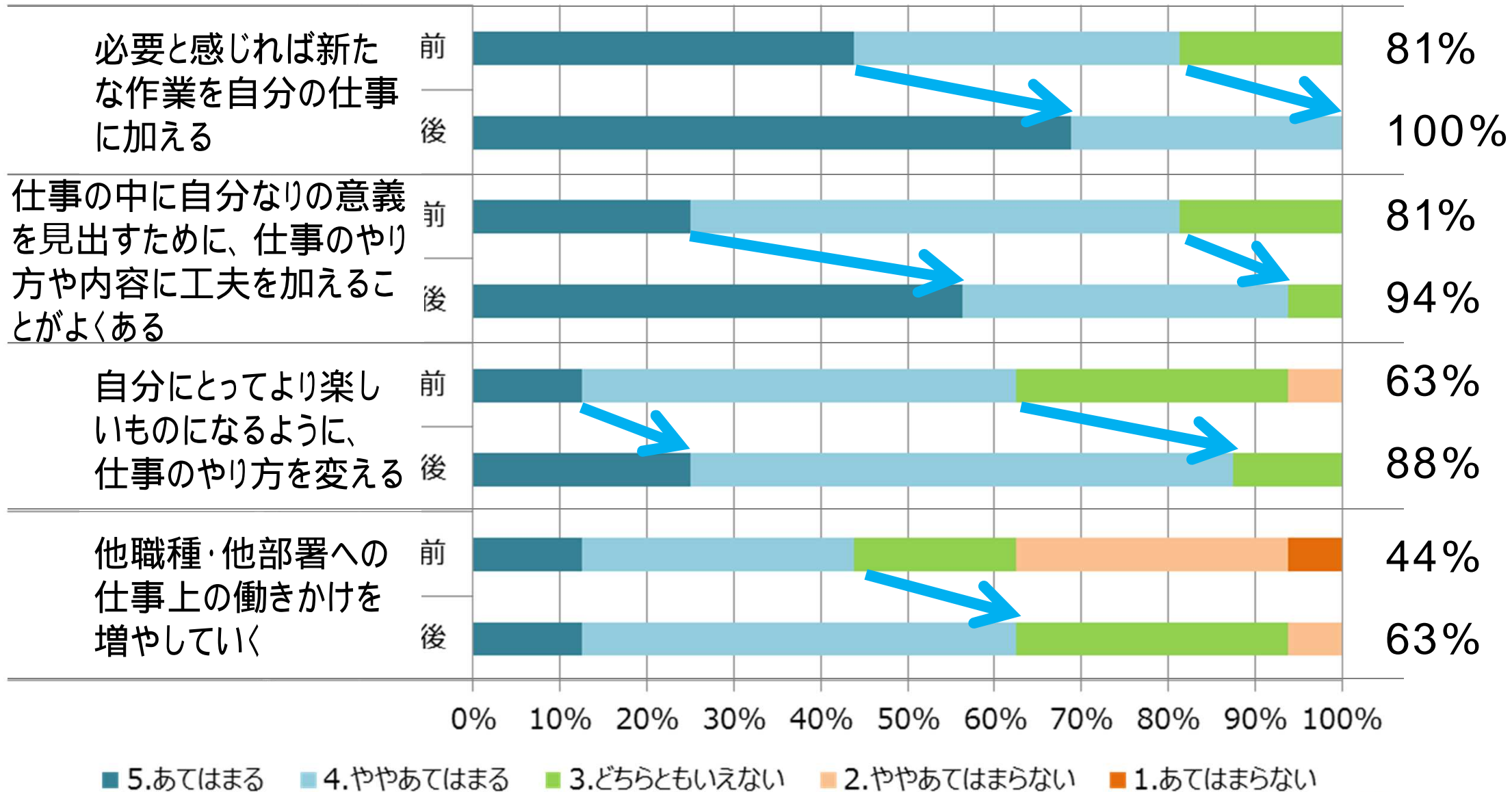
他職種・他部署への仕事上の働きかけを増やすようになった



仕事における行動や考えの変化（参加前後比較）

■担当している仕事における、活動が変わる

- タスクの範囲や、働きかける相手を、広くとらえるようになる傾向



仕事の意味や関係性のとらえ方の変化

- 「プロボノでは上下関係がないし、仕事じゃないので義務じゃないので、楽しくやるというのが大事なんだと思うんですよ。そういう雰囲気をつくりたいなと思ったんですよ。」
仕事だともうちょっとビジネスライクにドライにやる側面はもちろんあるとは思いますが、楽しい雰囲気をつくるというのは仕事でも大事なことだし、そこは仕事にも生かしていけるんじゃないかなと思いましたね。」 (30代男性、行政)
- 「今は事務補助をしていますけど、事務の仕事のイメージが、プロボノをしたり、支援先の会議に参加したりなどして、そういう裏方の仕事も楽しいんじゃないかなと、ちょっとだけイメージができました。その土台があったおかげで何かが大きく動いたというところですかね。大きく動かす力を裏方は持っているなという」 (20代女性、事務補助)

仕事に取り入れたい興味関心や、アイデア

- 「何か、あ、楽しいなって、デザインのところ。ふだん文字ばかりだけど、意外とこういうの、私、好きかもって思いました。ふだんの仕事じゃないことができたから、あ、意外とこういうの好きなんだとか気づけたので、いい機会を与えていただいたなって思います」(20代女性、行政)
- 「同じ話を聞いてても、皆さんのメモの内容が違う、受け取り方が違うので、たぶんその職種によって視点が違うのかなと思って。メモを取る部分も、重要だなって感じるところも、みんな違うんだなと。
今取り組もうとしているグループワークの振り返りや課題の説明時に、無記名でもメモを書いてもらって、指導内容をその人に合わせて変えながらやれるかなっていうふうには思っていました」(40代女性、介護)

アンケートより：参加してよかったことや学んだこと

- ボランティアで仕事のスキルを活かせることにやりがいを感じました。
- 社会貢献活動に取り組む人たちを見て、自分にも社会貢献活動に対する意識が少し芽生えたと感じる。
- 自分のもともとの本職も大事だが、その他にも自分にできることがあることがわかり、チャレンジしたいと思った。
- 社外の人との関わりを求め、自ら行動することができた。
- 傾聴する姿勢、ケアする心の必要性に気付いた
- なにぶん初めての参加で試み。勝手がわからない、時間もない、遠慮がちになった部分もあり、本業私生活とのバランスも難しかった。新しい分野を勉強し、もっと話したいこと、話せることもあった。これから、機会あったらクライアントにもっと協力していきたい。

アンケートより：参加してよかったことや学んだこと

- よかったこと：普段関わることのない方々と関わる事ができたこと、チームの方々と協働して一つのプロジェクトを達成する事ができたこと、仕事(作業)を進める上でチームの中での自分の役割について考えるという経験ができたこと、自分自身の強みについての認識ができたこと / 学んだこと：HP作成のやり方 其後の変化：情報発信の受け手について以前より考えるようになったように思う
- プロボノを通して、交流の機会がまずないだろうと思われる異業種の団体の活動に参加させてもらったり、活動の話をお聞きしたりする機会を持たせてもらいとても有意義だった。
- こももというサービスがあることを知れたこと、様々な業種の方と関わられたこと、いい経験となりました。
- 自分のスキルアップになった。